

資料「生徒主体の学びのデザイン」チェック表

実施ステップ		まとめ	チェックの観点
目標 ↓ 全体計画	目標設定 (資質能力ベースに)	<ul style="list-style-type: none"> ■育てたい生徒の姿を具体的に描く ■育みたい能力を明確にする ■目標を具体的に、生徒がイメージできるようにする <ul style="list-style-type: none"> ●生徒がなりたいたい姿のイメージを持てるようにする ●評価の観点(成果のイメージ)を生徒と共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ●育成したい生徒の姿は明確か ●伸ばしたい能力は明確か ●目標は生徒と共有しているか
	授業設計 (年間)	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎的なスキル習得につながる活動を初期に組み込むなど、目的に応じて全体を設計する ■生徒の学びへの意識を変革する(受け身のマインドセットを変える)(初期の段階) ■学び方を学ばせる <ul style="list-style-type: none"> ●学習そのものの進め方 ●探究の進め方 ■社会につながる学習の場を活用する(外部リソースの取り入れ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●目的に応じた全体設計になっているか ●学習観の意識変革など、学びのマインドセットができていないか/必要か ●学び方を学ばせているか ●社会につながる学習の場はあるか/必要か
仕込み (事前準備)	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ■対話によって学習が深められる環境を用意する 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標達成には、どのような学習環境が必要か ●生徒が学びやすい環境になっているか
	教材 (素材)	<ul style="list-style-type: none"> ■思考を促す教材を用意する <p><素材の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●オリジナル素材の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・多面的な視点が持てる素材 ・自分の日常と結びつく素材 ●教科書の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の教科書を分析し、どの能力が育成できるのかを明確にして使用する ・情報を批判的に捉える対象としても、教科書を利用する ●入試問題の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・入試問題を分析し、能力の育成や深い理解が促されるかを明確にして、活用する ●論文などの場合 <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動のために、学術論文なども含めた必要な情報を生徒自身が集め、活用することを支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ●思考を促す教材となっているか ●使っている教材はどのような思考を促しているか
	教材 (課題・問い)	<ul style="list-style-type: none"> ■思考を促す課題・問いを設定する <p><問いの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●理解を深める問い <ul style="list-style-type: none"> 「～について論ぜよ」など、理解をしていないとすぐに答えにたどり着かない、いくつかの視点が含まれる問い ●思考するための問い <ul style="list-style-type: none"> ・「○と△はどのような点で似ているか」 ・「△と□を比較してどちらを選ぶか論ぜよ」など ●複数の情報を分析して多面的に考える課題や問い ●オープンエンドで多面的に考え、自分の考えを深められる問い <ul style="list-style-type: none"> ※上記の観点を取り入れて、ワークシートの形式などで教材化する ●探究テーマの自己設定の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を持てるもの ・社会に役立つと考えられるもの 	<ul style="list-style-type: none"> ●思考を促す問いとなっているか ●問い・課題は、どのような思考を促しているか
授業	授業設計 (授業単位)	<ul style="list-style-type: none"> ■個⇒グループ⇒個の流れで、思考を深める <ul style="list-style-type: none"> ・問いに対し、まず個人で考える ・その考えをペアまたはグループで共有し議論する中で、多様な意見、多面的な視野で考える ・上記を踏まえ最終的に個人の考えをまとめる流れで、授業を設計する ■対話を通じた学習を核にする 	<ul style="list-style-type: none"> ●どのような学びを実現したいか
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の自由な思考を促す <ul style="list-style-type: none"> ・活動を制限しない ・思考の自由を与える ・考え方を示す ・ヒントを出す ・不足点を伝える ・問い返す ■生徒間で多様な考えを認め合うように促す ■生徒の状況に合わせ、柔軟に追加説明や新しい教材の提示などの支援を行う (生徒主体が難しい場合の修正) 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の思考を促しているか ●生徒同士がお互いを認め合うように促しているか ●状況に応じて支援・指導しているか
	成果/アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ■各自の思考、成果をアウトプットさせる <p><アウトプットの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●テーマに対する自分の考えと根拠の記述・発表 ●小論文作成 ●探究・研究レポート作成 ●校内の発表大会など、保護者や他学年の生徒など聴衆がいる場での発表 ●学会や研究会など校外の発表の場での発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●どのような思考・成果をアウトプットさせるか
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ■最初の目標に照らし合わせて成果の振り返りをさせる <p><振り返り活動の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●成果・プロセスの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力がついたかどうか ・発表などで、よかった点や課題 ・問題のどこを、どうして間違えたのか ・疑問に思うこととそれに対する予想 ・上記の振り返りから理解を深め改善点を見いだす(自分で・対話を通して) ●学び方の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの学び方を知ること自分の学び方をよりよくする ●他者評価を踏まえた振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・発表などに対する他者からの意見・感想・評価を踏まえて自分の改善点を見いだす 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標に照らして成果を振り返り、次の活動につなげさせているか
評価	評価 (多面的評価)	<ul style="list-style-type: none"> ■多様な生徒の評価 <ul style="list-style-type: none"> ●総括的評価・形成的評価 <ul style="list-style-type: none"> ・客観テスト ・受賞・入賞 ・ルーブリック評価 ・他者からの評価 ・自己評価 など 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の多面的な評価を行っているか
		<ul style="list-style-type: none"> ■教師自身の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ●最初の目標に照らし合わせて到達状況を振り返る ●生徒からの評価を受けて、改善点を検討する(アンケートなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ●教師自身も振り返りを行い、指導や計画を見直しているか